

山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔令和5年7月～9月実績〕
〔令和5年10月～12月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 165企業

2. 調査対象期間

第2四半期 令和5年7月～9月期 「調査時点：令和5年9月1日」

3. 調 査 方 法

県内の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービ業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韮 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	53	165

5. そ の 他

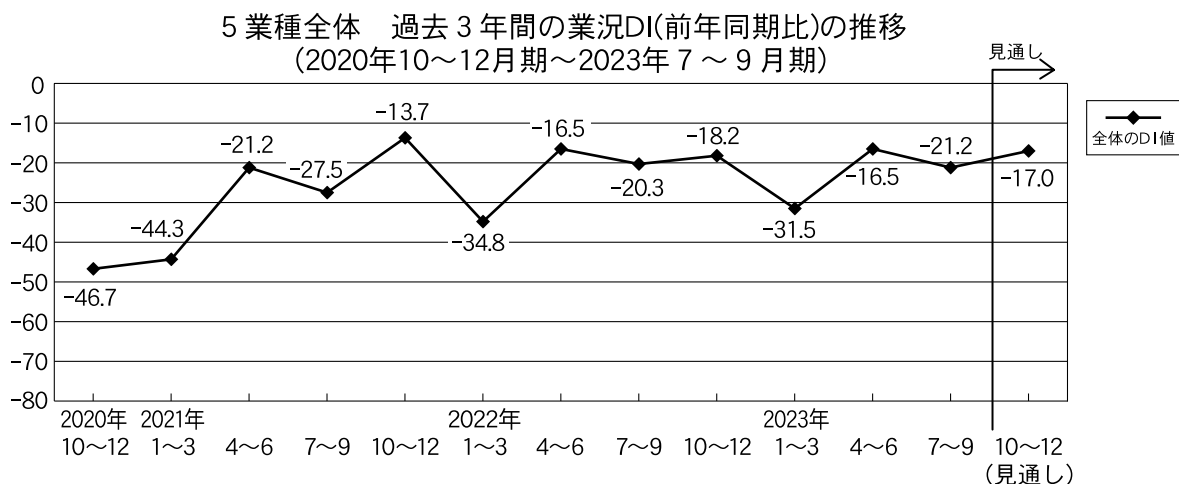
本報告書のD Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断D I、及び、産業別の業況判断D Iについてみる。

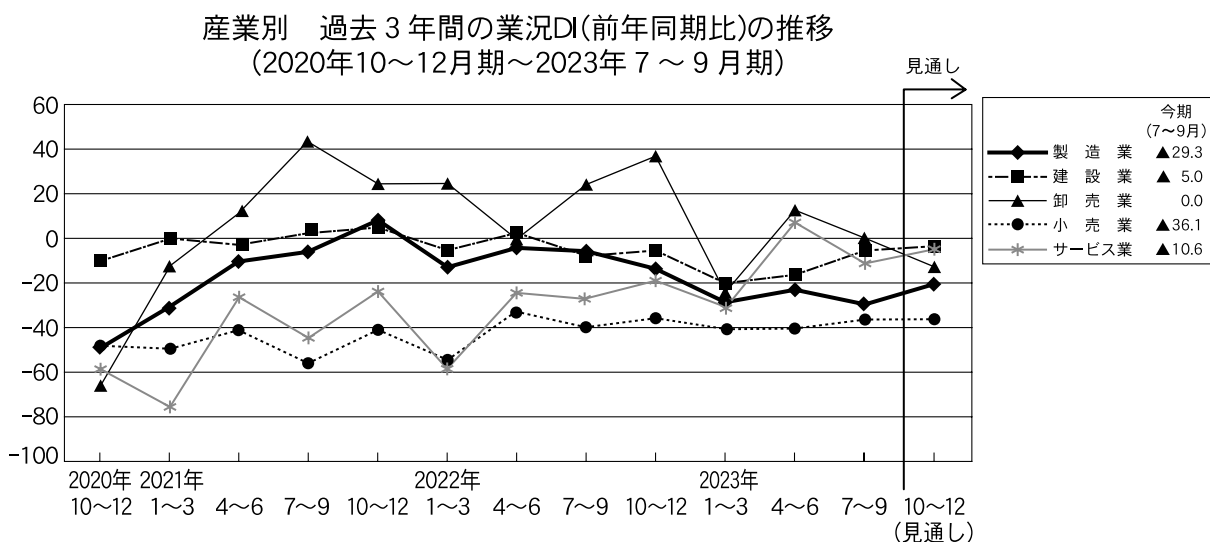
まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断D Iである。今期の業況判断D Iは、▲21.2と前期比で4.7ポイント悪化している。来期については▲17.0へと改善の見通しである。



次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断D Iである。

建設業、小売業が前期より改善、製造業、卸売業、サービス業が悪化した。製造業は▲29.3で前期比▲6.6ポイント、建設業が▲5.0で前期比+10.0ポイント、卸売業が0.0で前期比▲12.5ポイント、小売業が▲36.1で前期比+4.1ポイント、サービス業が10.6で前期比▲17.8ポイントであった。

来期は、卸売業を除いた全産業が今期業況判断より改善の見通しとなっている。



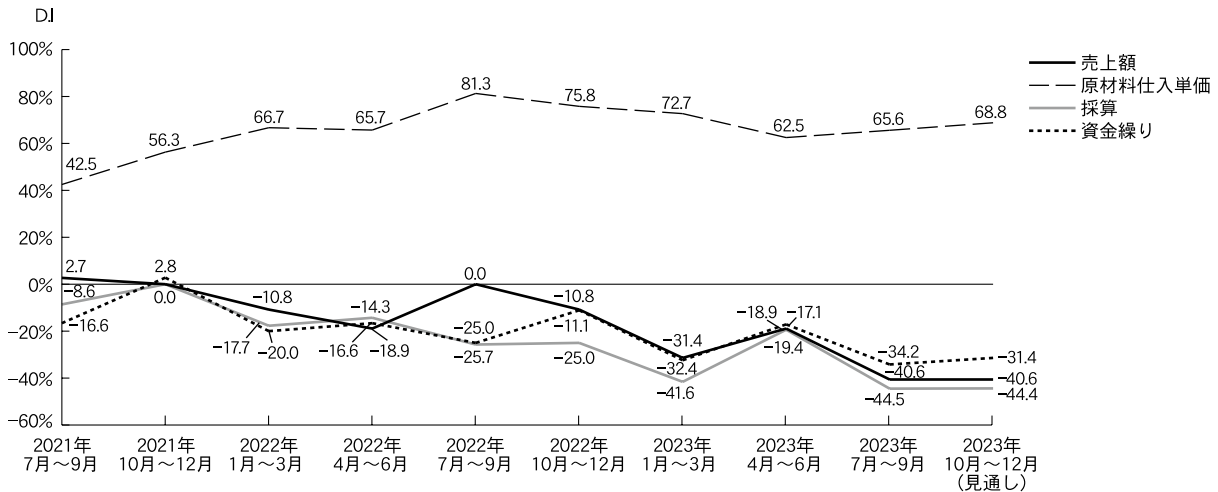
【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業に甲府・富士吉田地域等からの123企業を含めた288サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況D Iについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲40.6と前期比で21.7ポイント悪化し、来期も▲40.6の見通し。原材料仕入単価D Iは、今期65.6と前期比で3.1ポイント上昇（悪化）し、来期も68.8へ上昇（悪化）の見通し。採算D Iは、今期▲44.5と前期比で25.1ポイント悪化したが、来期は44.4へ僅かながら改善の見通し。資金繰りD Iも、今期▲34.2と前期比で17.1ポイント悪化したが、来期は▲31.4へ若干ながら改善の見通しである。今期は全D Iが悪化であった。来期は採算D I、資金繰りD Iは改善の見通しとなっている。

山梨県 製造業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

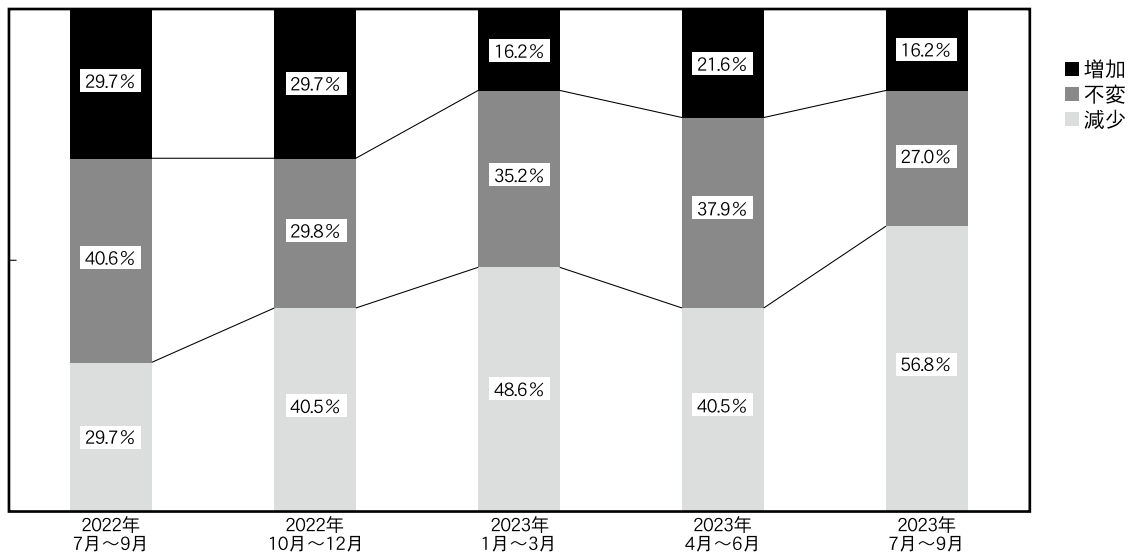
① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数37社））

「増加」と答えた企業の割合は、16.2%（6社）と減少（前期比▲2社）している。

「不変」は27.0%（10社）と減少（前期比▲4社）、

「減少」は56.8%（21社）と増加（前期比+6社）している。

山梨県 製造業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D I の内容（回答企業数36社））

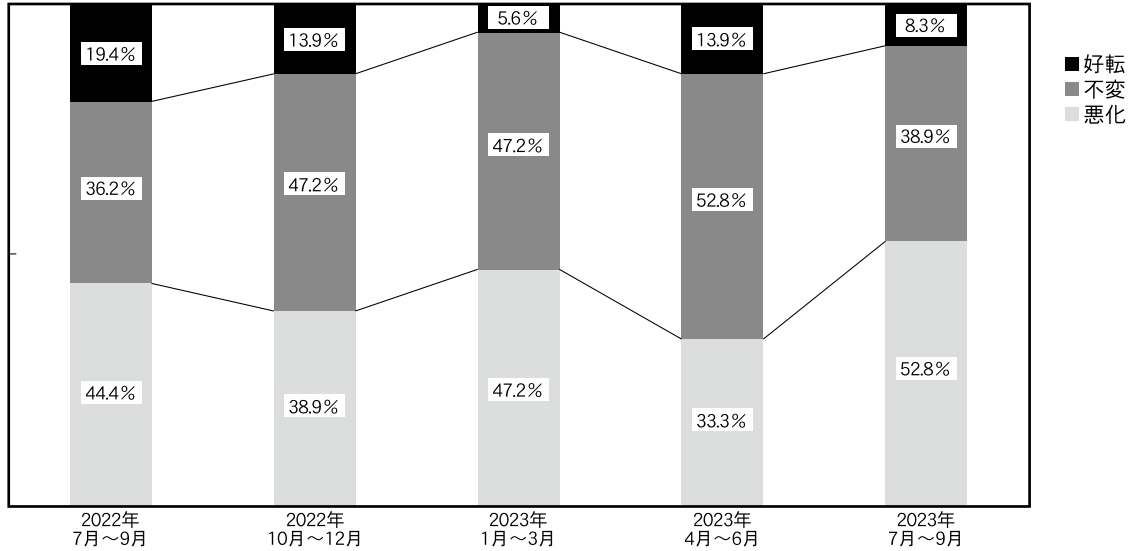
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、8.3%（3社）と減少（前期比▲2社）している。

「不変」は38.9%（14社）と減少（前期比▲5社）、

「悪化」は52.8%（19社）と増加（前期比+7社）している。

山梨県 製造業 採算の状況－前年同期比－

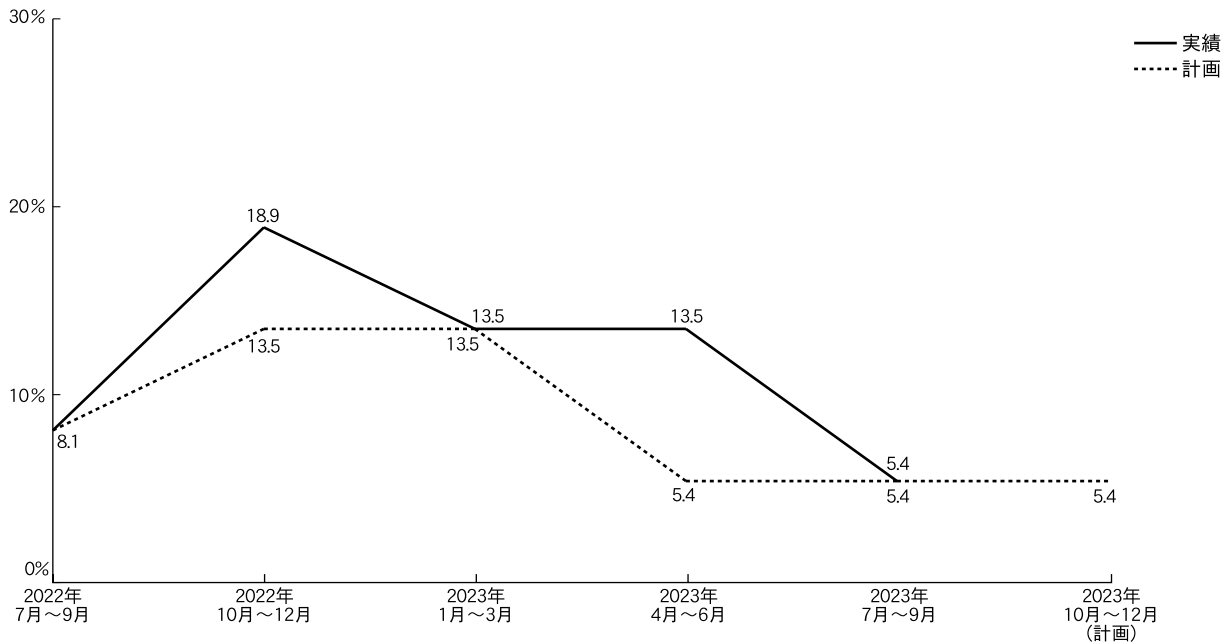


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数37社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は5.4%（2社）であった。その設備投資の内容は、「生産設備」「付帯施設」が1件ずつあった。

来期の計画については、5.4%（2社）の企業が予定している。その設備投資の内容は「生産設備」が2件である。

山梨県 製造業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数36社）

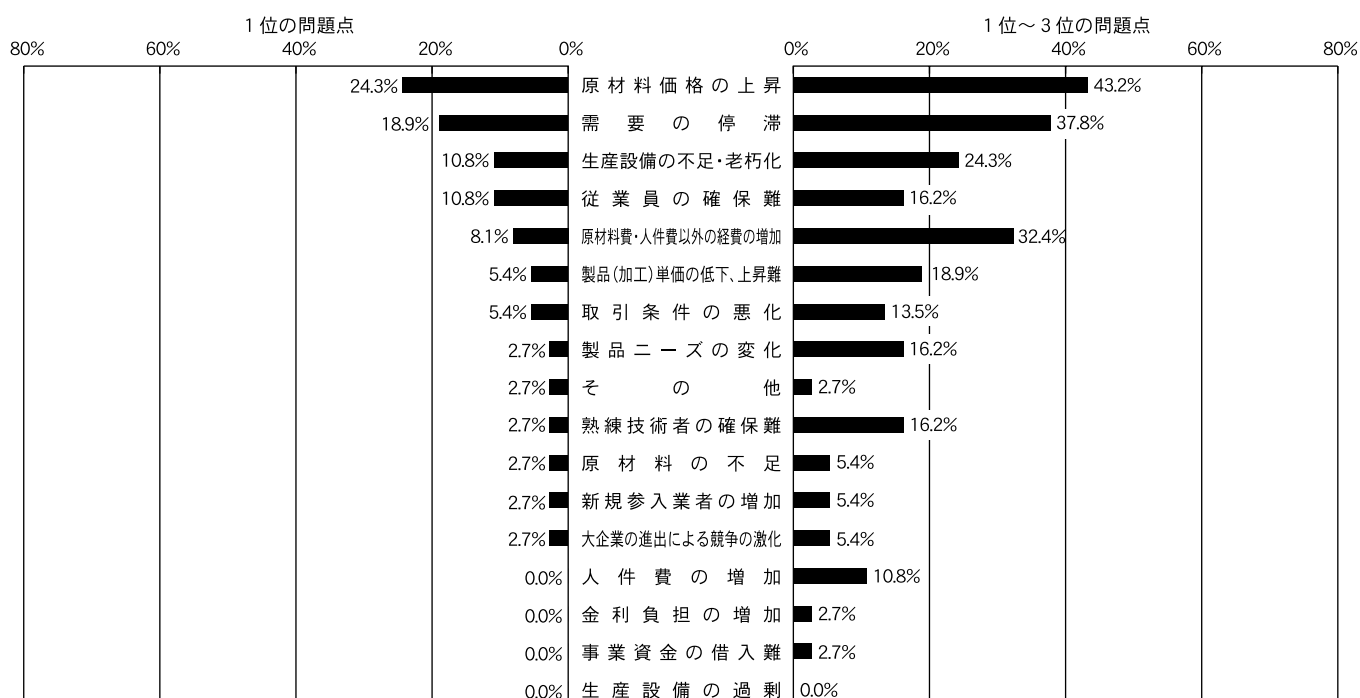
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「原材料価格の上昇」の24.3%（9社）であり、2番目は「需要の停滞」の18.9%（7社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらにも、1番目に多かったのは「原材料価格の上昇」の43.2%（16社）であり、2番目に多かったのも「需要の停滞」の37.8%（14社）であった。

山梨県 製造業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	4	10.8
飲料・飼料・たばこ製造業	1	2.7
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	4	10.8
金属製品製造業	3	8.1
一般機械器具製造業	13	35.1
電気機械器具製造業	3	8.1
精密機械器具製造業	1	2.7
その他製造業	4	10.8
合計	37	100.0

従業員規模別

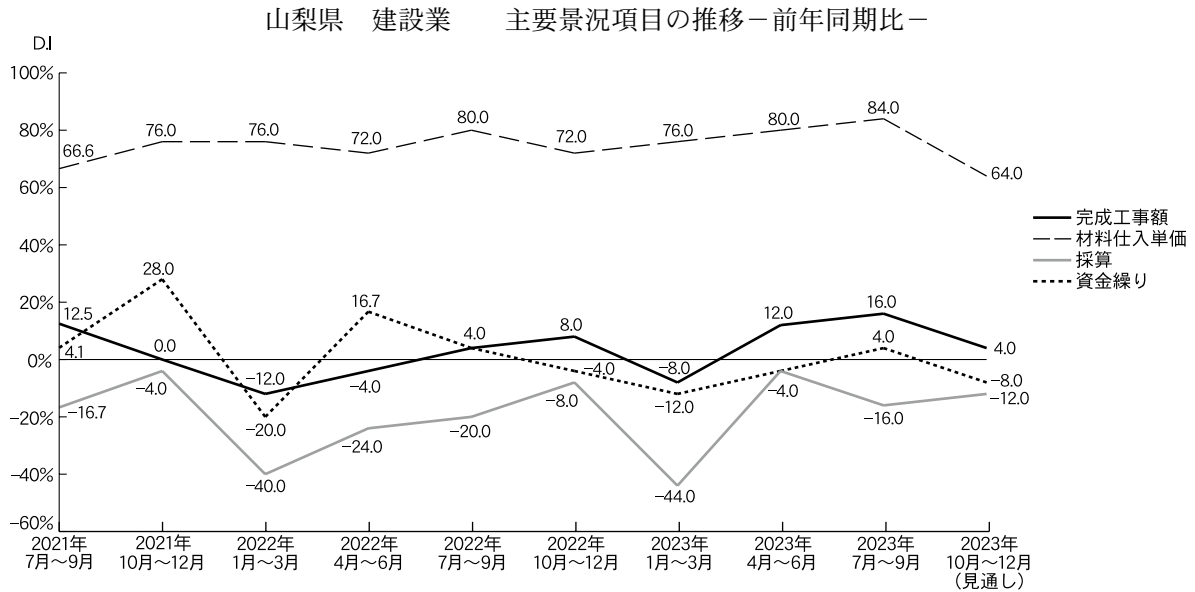
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	18	48.6	15	40.5
3人～5人以下	9	24.3	7	18.9
6人～10人以下	7	18.9	11	29.7
11人～20人以下	3	8.1	4	10.8
合計	37	100.0	37	100.0

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額D Iは、今期16.0と前期比で4.0ポイント改善したが、来期は▲4.0へ悪化の見通し。材料仕入単価D Iは、今期84.0と前期比で4.0ポイント上昇（悪化）したが、来期は64.0へ大きく下降（改善）の見通しである。採算D Iは、今期▲16.0と前期比で12.0ポイント悪化したが、来期は▲12.0へ改善の見通し。資金繰りD Iは、今期▲4と前期比で8ポイント改善したが、来期は8.0へ悪化の見通しである。

今期は完成工事額D Iと資金繰りD Iとが改善となり、材料仕入単価D Iと採算D Iとが悪化となった。来期は逆転し、完成工事額D Iと資金繰りD Iが悪化の見通しで、材料仕入単価D Iと採算D Iが改善の見通しである。



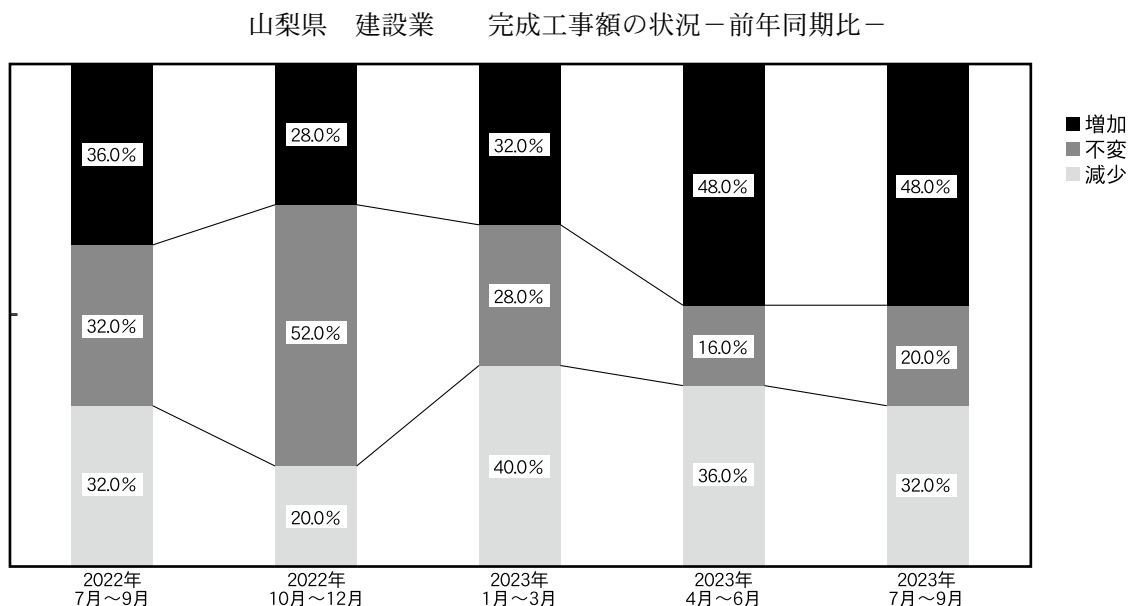
(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（完成工事額D Iの内容（回答企業数25社））

「増加」と答えた企業の割合は、48.0%（12社）で前期と変わらず。

「不変」は20.0%（5社）と増加（前期比+1社）、

「減少」は32.0%（8社）と減少（前期比▲1社）している。

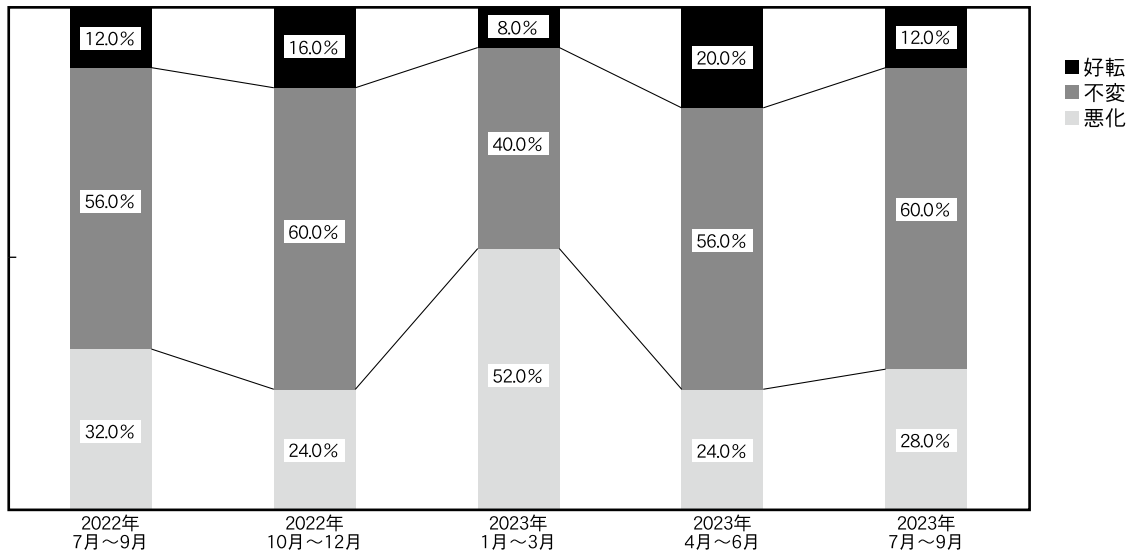


② 採算（採算D I の内容（回答企業数25社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、12.0%（3社）と減少（前期比▲2社）している。
 「不変」は60.0%（15社）と増加（前期比+1社）、
 「悪化」は28.0%（7社）と増加（前期比+1社）している。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－

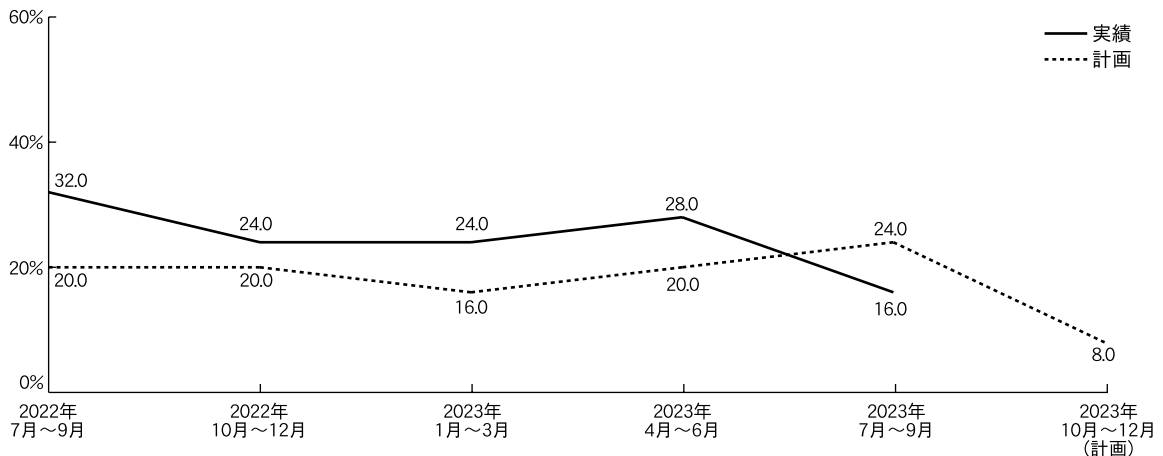


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数25社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は16.0%（4社）であった。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が2件、「土地」「付帯施設」「その他」が1件ずつであった。

来期の計画については、8.0%（2社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「土地」が2件、「建設機械」「車両・運搬具」が1件ずつになる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数25社）

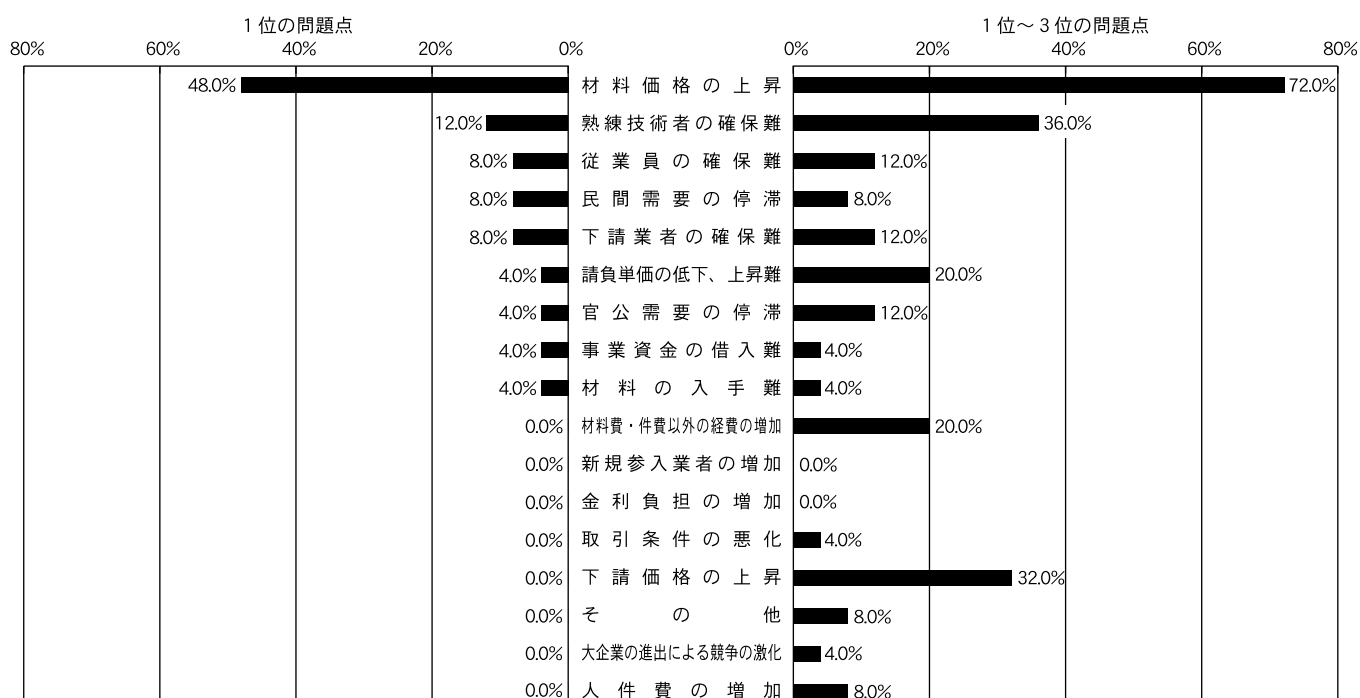
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

前回調査に引き続き「材料価格の上昇」が抜きん出て挙げられており48.0%（12社）であった。2番目に多かったのは「熟練技術者の確保難」の12.0%（3社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも、1番目に多かったのは「材料価格の上昇」の72.0%（18社）であった。2番目に多かったのも「熟練技術者の確保難」の36.0%（9社）であった。

山梨県 建設業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	19	76.0
職別工事業	3	12.0
設備工事業	3	12.0
合計	25	100.0

従業員規模別

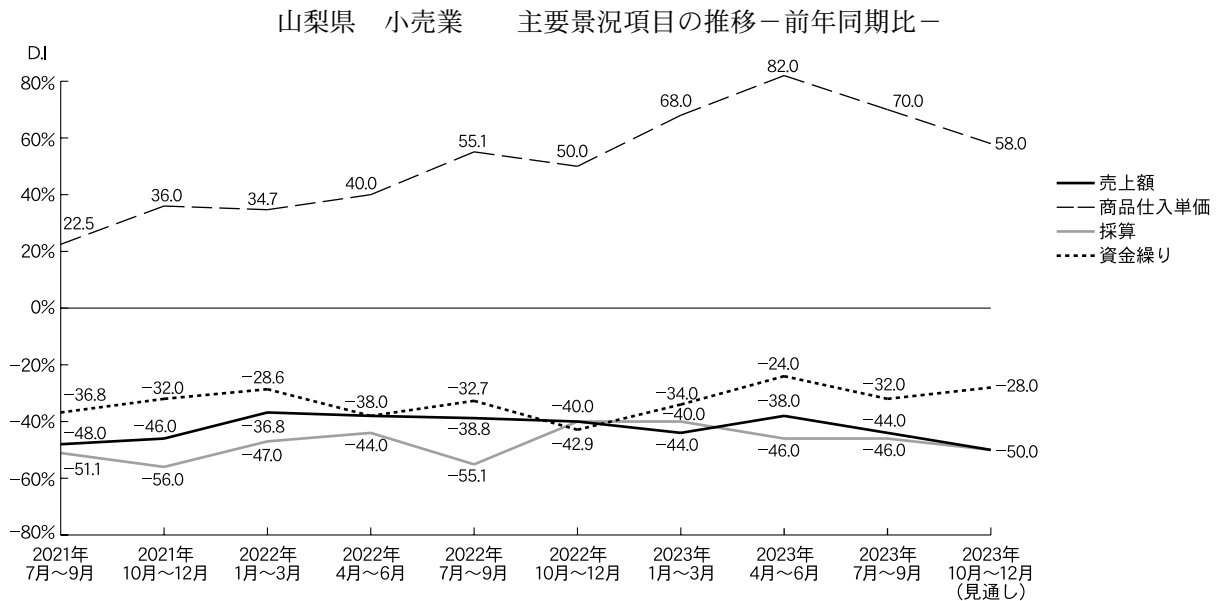
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い			
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	9	36.0	8	32.0
3人～5人以下	5	20.0	6	24.0
6人～10人以下	5	20.0	5	20.0
11人～20人以下	5	20.0	5	20.0
21人～50人以下	1	4.0	1	4.0
合計	25	100.0	25	100.0

4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲44.0と前期比で6.0ポイント悪化し、来期も▲50.0へ悪化の見通し。商品仕入単価D Iは、今期70.0と前期比で12.0ポイント下降（改善）し、来期も58.0へ下降（改善）の見通し。採算D Iは、今期は▲46.0と前期と変化無く、来期は▲50.0へ悪化の見通し。資金繰りD Iは、今期▲32.0と前期比で8.0ポイント悪化した。来期は▲28.0へ改善の見通しである。

今期は売上額D Iと資金繰りD Iが悪化し、商品仕入単価D Iが改善、採算D Iが変化なし。来期は売上額D Iと採算D Iが悪化、商品仕入単価D Iと資金繰りD Iが改善の見通しである。



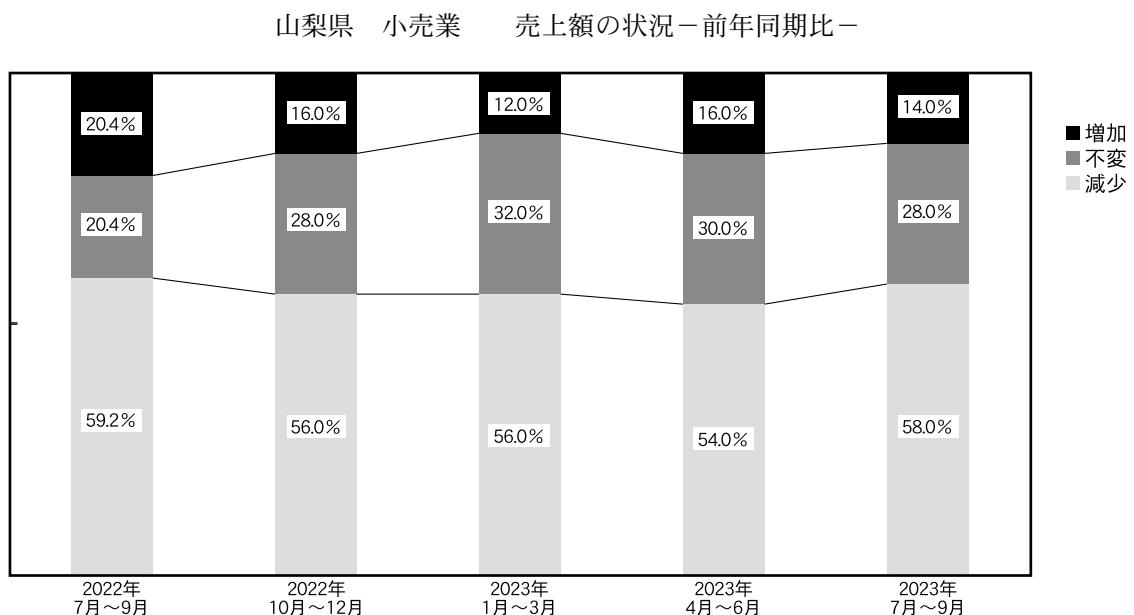
(2) 主な項目でみる業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数50社））

「増加」と答えた企業の割合は、14.0%（7社）と減少（前期比▲1社）している。

「不変」は28.0%（14社）と減少（前期比▲1社）、

「減少」は58.0%（29社）と増加（前期比+2社）している。



② 採算（採算D I の内容（回答企業数50社））

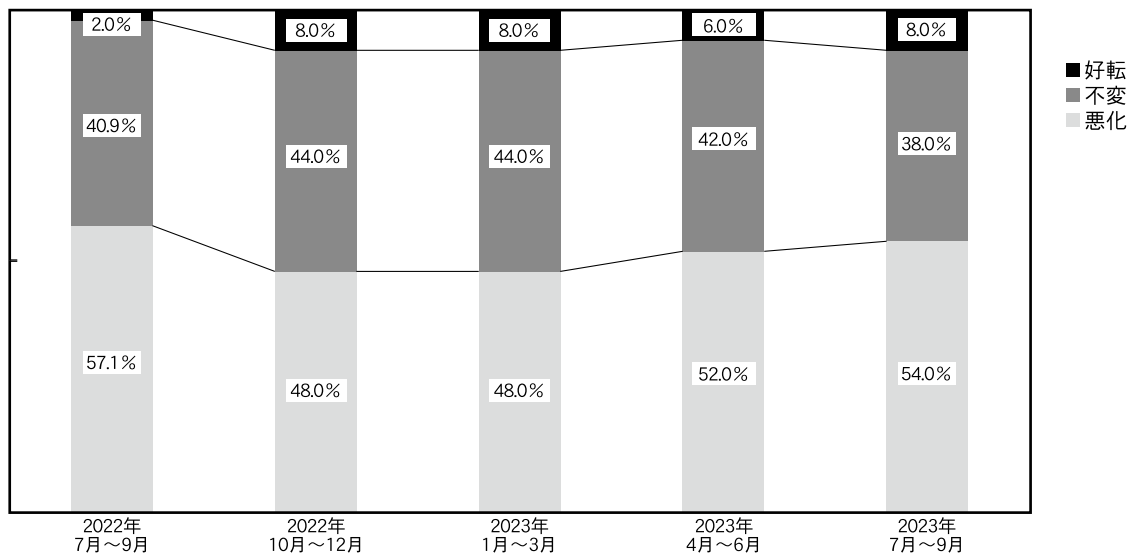
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、8.0%（4社）と増加（前期比+1社）している。

「不変」は38.0%（19社）と減少（前期比▲2社）、

「悪化」は54.0%（27社）と増加（前期比+1社）している。

山梨県 小売業 採算の状況－前年同期比－

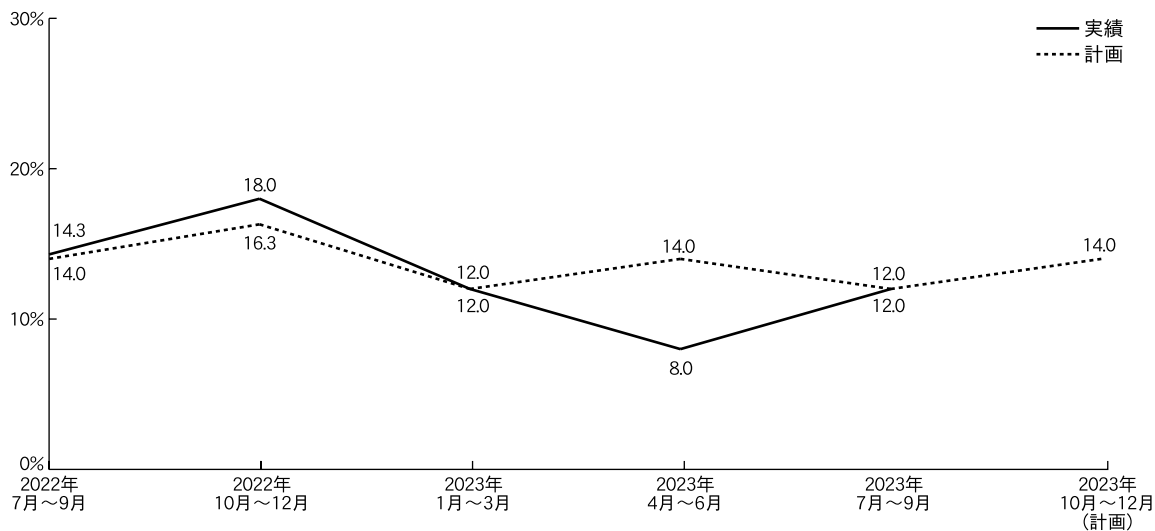


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数50社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は12.0%（6社）であった。その設備投資の内容は、「付帯施設」が4件、「販売設備」「その他」が2件ずつ、「車両・運搬具」が1件であった。

来期の計画については、14.0%（7社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が3件、「店舗」「販売設備」「OA機器」「その他」が2件ずつ、「付帯施設」が1件になる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

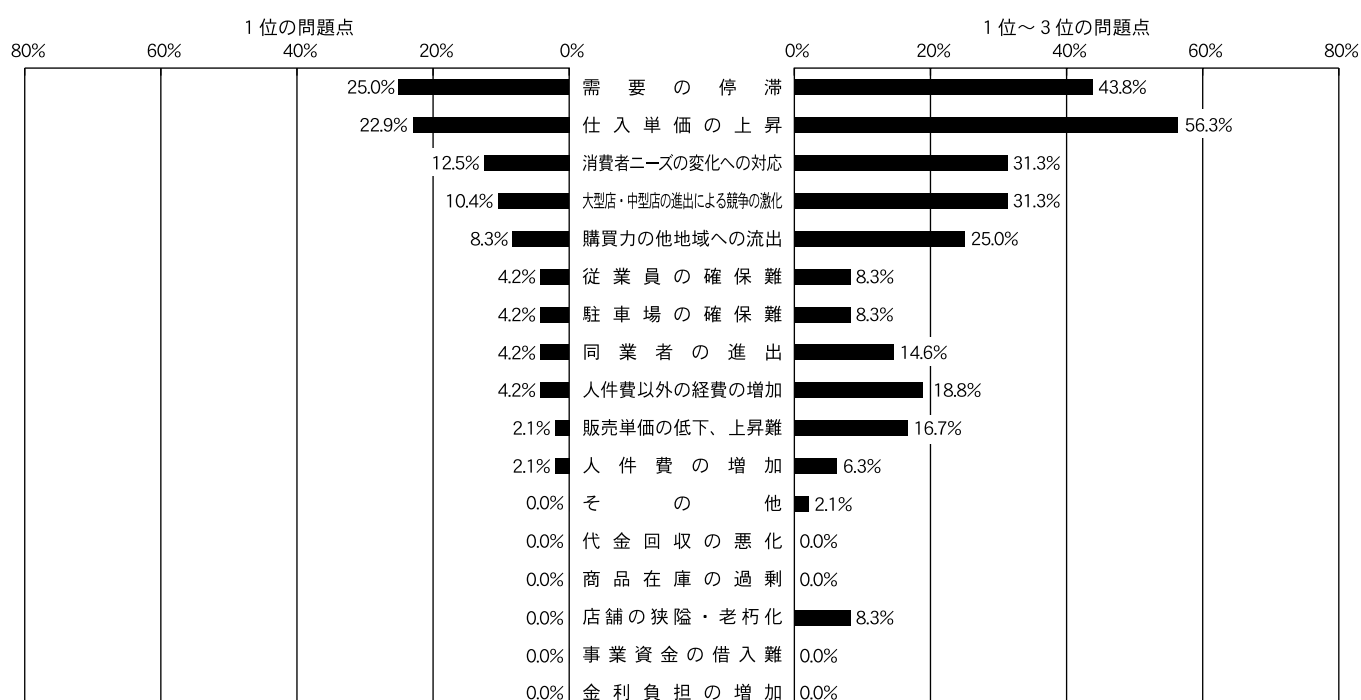
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは「需要の停滞」の25.0%（12社）であり、2番目は「仕入単価の上昇」の22.9%（11社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「仕入単価の上昇」の56.3%（27社）であり、2番目は「需要の停滞」の43.8%（21社）であった。

山梨県 小売業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0.0
織物・衣服・身の回り品小売業	10	20.0
飲食品小売業	19	38.0
自動車・自転車小売業	2	4.0
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.0
その他小売業	15	30.0
合計	50	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	46	92.0	38	76.0
3人～5人以下	4	8.0	12	24.0
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	50	100.0	50	100.0

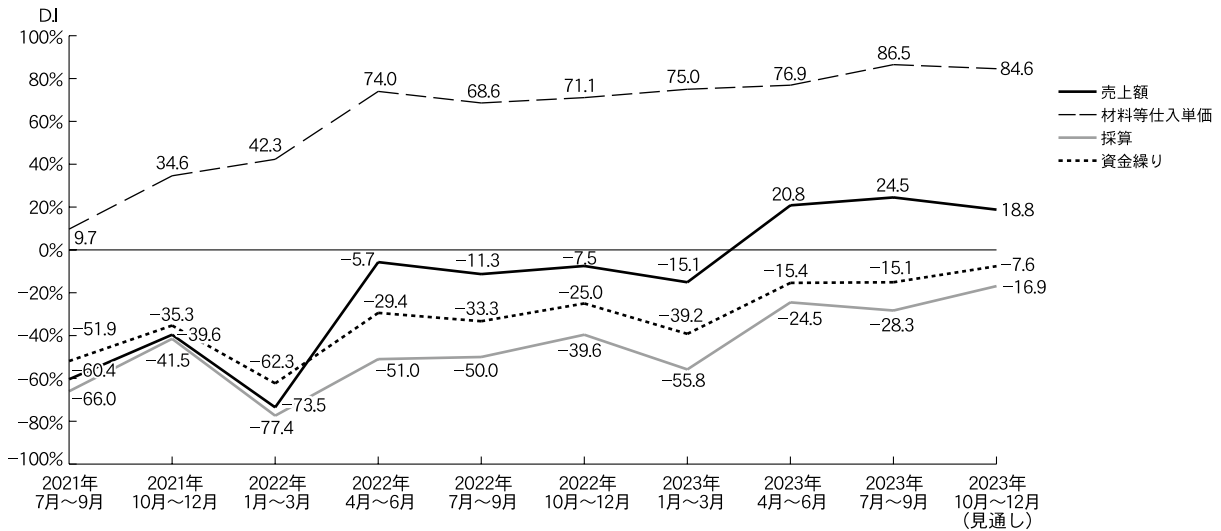
5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期24.5と前期比で3.7ポイント改善したが、来期は18.8へ悪化の見通し。材料等仕入単価D Iは、今期86.5と前期比で9.6ポイント上昇（悪化）したが、来期は84.6へ僅かながら下降（改善）の見通し。採算D Iは、今期▲28.3と前期比で3.8ポイント悪化したが、来期は▲16.9へ改善の見通し。資金繰りD Iは、今期▲15.1と前期比で0.3ポイント改善、来期も▲7.6へ改善の見通しである。

今期は売上額D Iと資金繰りD Iが改善、材料等仕入単価D Iと採算D Iが悪化した。来期は売上額D Iの悪化見通しを除き、他のD Iは全て改善の見通しである。

山梨県 サービス業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

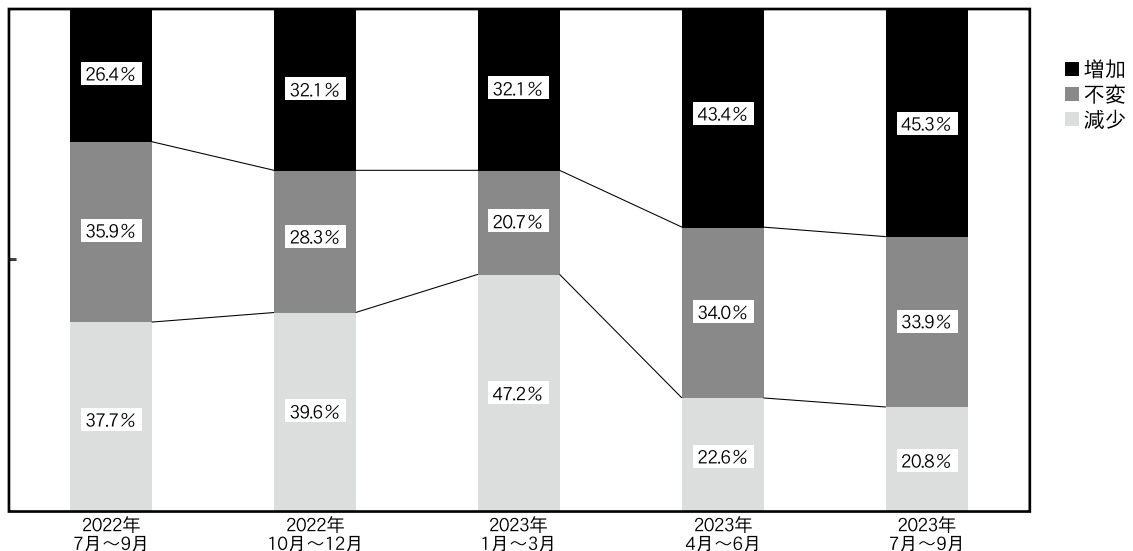
① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数53社））

「増加」と答えた企業の割合は、45.3%（24社）と増加（前期比+1社）している。

「不変」は33.9%（18社）で前期と変わらず、

「減少」は20.8%（11社）と減少（前期比▲1社）している。

山梨県 サービス業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D I の内容（回答企業数53社））

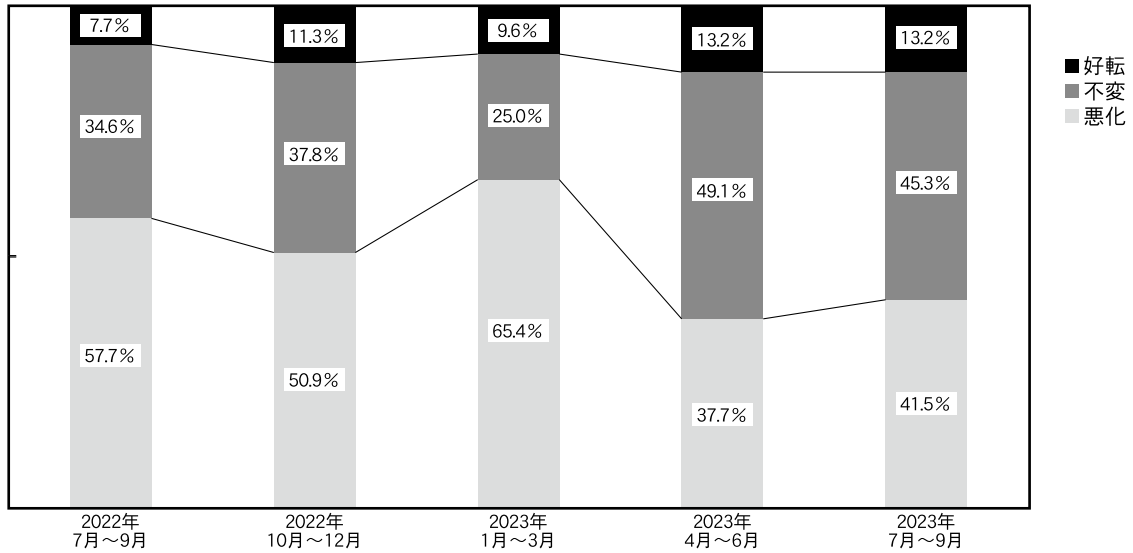
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、13.2%（7社）で前期と変わらず。

「不変」は45.3%（24社）と減少（前期比▲2社）、

「悪化」は41.5%（22社）と増加（前期比+2社）している。

山梨県 サービス業 採算の状況－前年同期比－

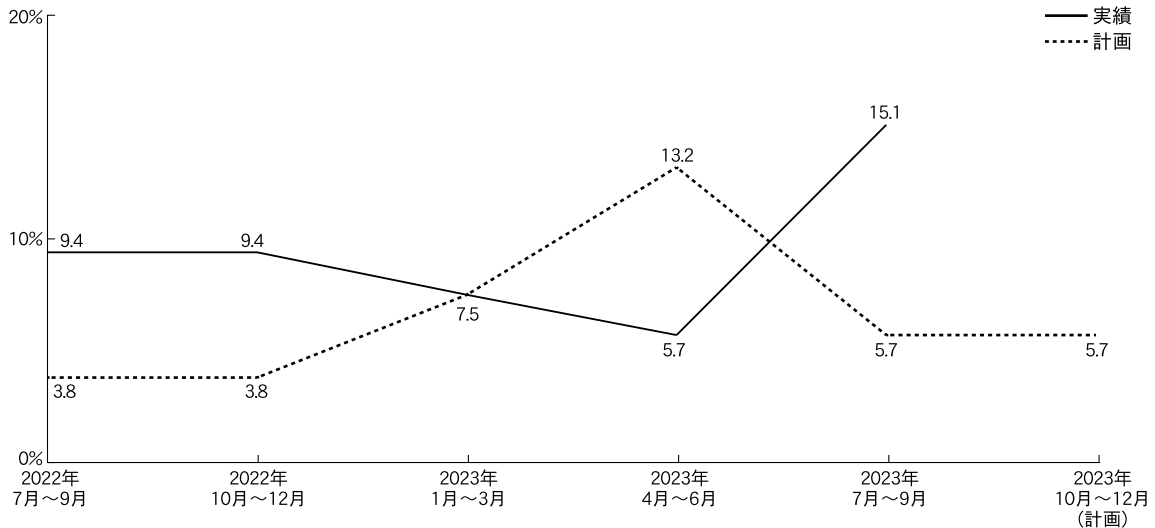


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数53社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は15.1%（8社）であった。その設備投資の内容は、「サービス」「付帯施設」が3件ずつ、「建物」が2件であった。

来期の計画については、5.7%（3社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」「付帯施設」「その他」が1件ずつになる。

山梨県 サービス業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

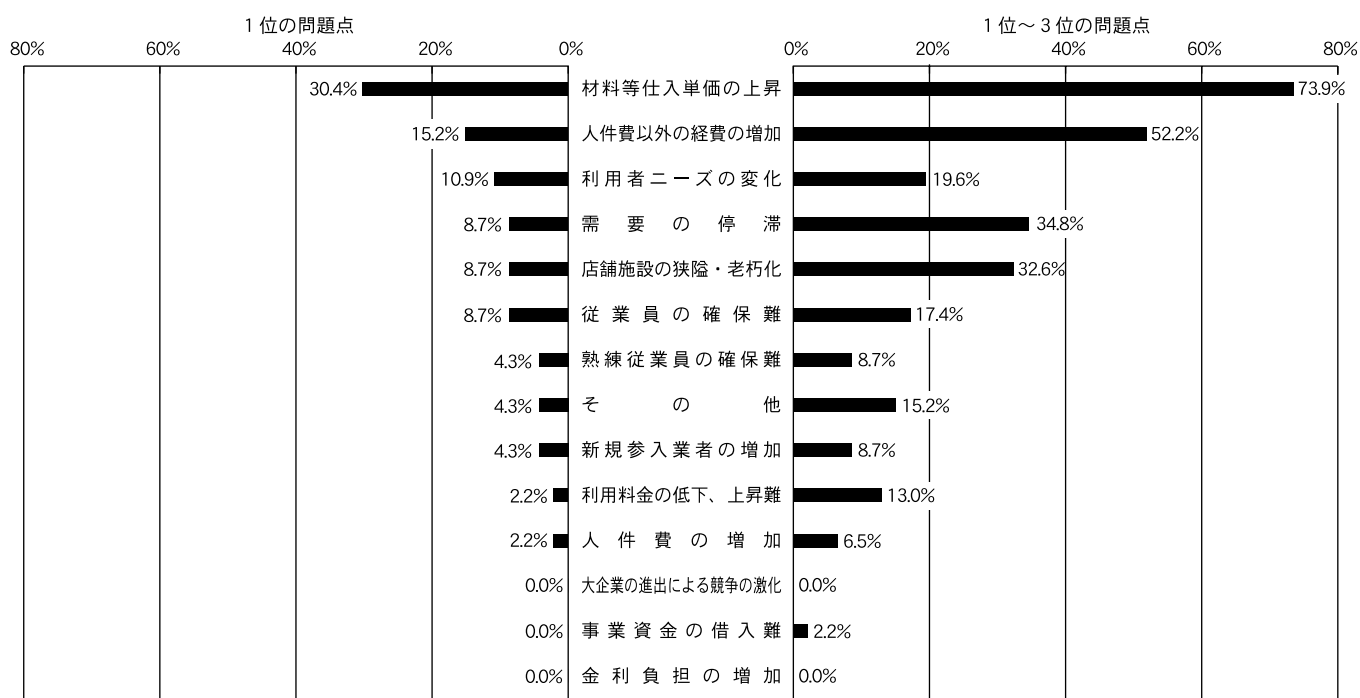
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

前回調査に引き続き1番目に多かったのは、「材料等仕入単価の上昇」の30.4%（14社）であり、2番目は「人件費以外の経費の増加」の15.2%（7社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも1番目に多かったのは、「材料等仕入単価の上昇」の73.9%（34社）であり、2番目も「人件費以外の経費の増加」の52.2%（24社）であった。

山梨県 サービス業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	19	35.8
宿泊業	7	13.2
運送業	1	1.9
自動車整備業	4	7.5
洗濯・理美容業	19	35.8
その他のサービス業	3	5.7
合計	53	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	46	86.8	40	75.5
3人～5人以下	7	13.2	12	22.6
6人～10人以下	0	0.0	1	1.9
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	53	100.0	53	100.0